

## ○ 日本赤十字社の対応

新型コロナウイルス（以下「ウイルス」という。）の感染拡大が進むなかでも、医療機関に対して輸血用血液製剤を安定的に供給するとともに、国内製薬企業に対して血漿分画製剤の原料となる血漿（原料血漿）を滞りなく送付できるよう、必要血液量の確保に向けて、献血会場等におけるウイルス感染予防対策や国民に対する一層の献血推進に取り組んでいます。

### 1 献血会場等におけるウイルス感染予防対策の実施

献血会場等におけるウイルス感染を予防し、安全かつ安心な献血環境を保持する観点から、職員の健康管理を徹底するとともに、ウイルス感染の可能性のある方の献血会場への入場を制限する（図1、図2参照）など、各種対策に取り組んでいます。

#### 【献血会場における主なウイルス感染予防対策】

- 会場入口での「献血をご遠慮いただく条件」（※）の掲示（図1、図2参照）
- 会場入口での献血者への体温測定及び手指消毒の実施
- 職員の献血者対応時の手指消毒の実施
- 会場の日々の清掃及び機材の消毒の実施
- 献血予約の推進による協力時間帯の分散、密集の回避
- 問診室等の密閉空間の換気の実施
- 献血者へのマスクの着用依頼

#### ※献血をご遠慮いただく条件（新型コロナウイルス関連）

- 海外から帰国して「4週間以内」の方
- 発熱や咳、呼吸困難などの呼吸器症状等のある方
- 新型コロナウイルス感染症（または感染疑い）と診断された方と、4週間以内に濃厚な接触のあった方
- 新型コロナウイルス感染症（または感染疑い）と診断された方
- 発熱のある方や味覚、嗅覚の違和感を自覚する方

【図1】献血会場入口に掲示しているポスター①

## 「新型コロナウイルス感染症」 が発生しています

以下に該当する方は

「献血」をご遠慮いただいております。

- ◆ 海外から帰国して「4週間以内」の方
- ◆ 発熱や咳、呼吸困難などの呼吸器症状等のある方
- ◆ 新型コロナウイルス感染症（または感染疑い）と診断された方と、4週間以内に濃厚な接触\*があった方
- ◆ 新型コロナウイルス感染症（または感染疑い）と診断された方

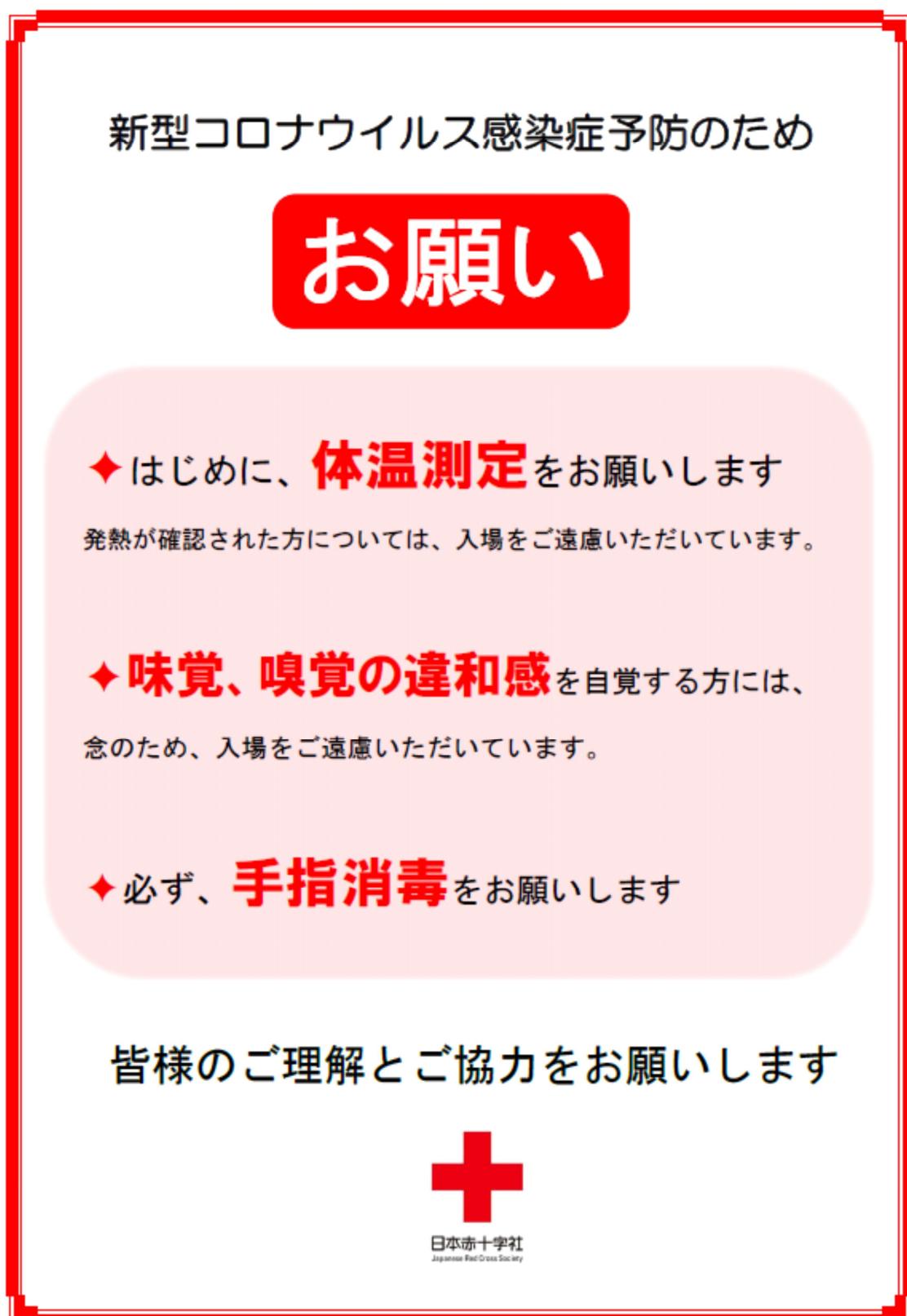
\*「濃厚接触」とは、必要な感染予防策なしで手で触れること、または対面で会話することが可能な距離（目安として2メートル）で接觸した場合を指します。

（厚生労働省 新型コロナウイルスに関するQ&A 参照）



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

【図2】献血会場入口に掲示しているポスター②



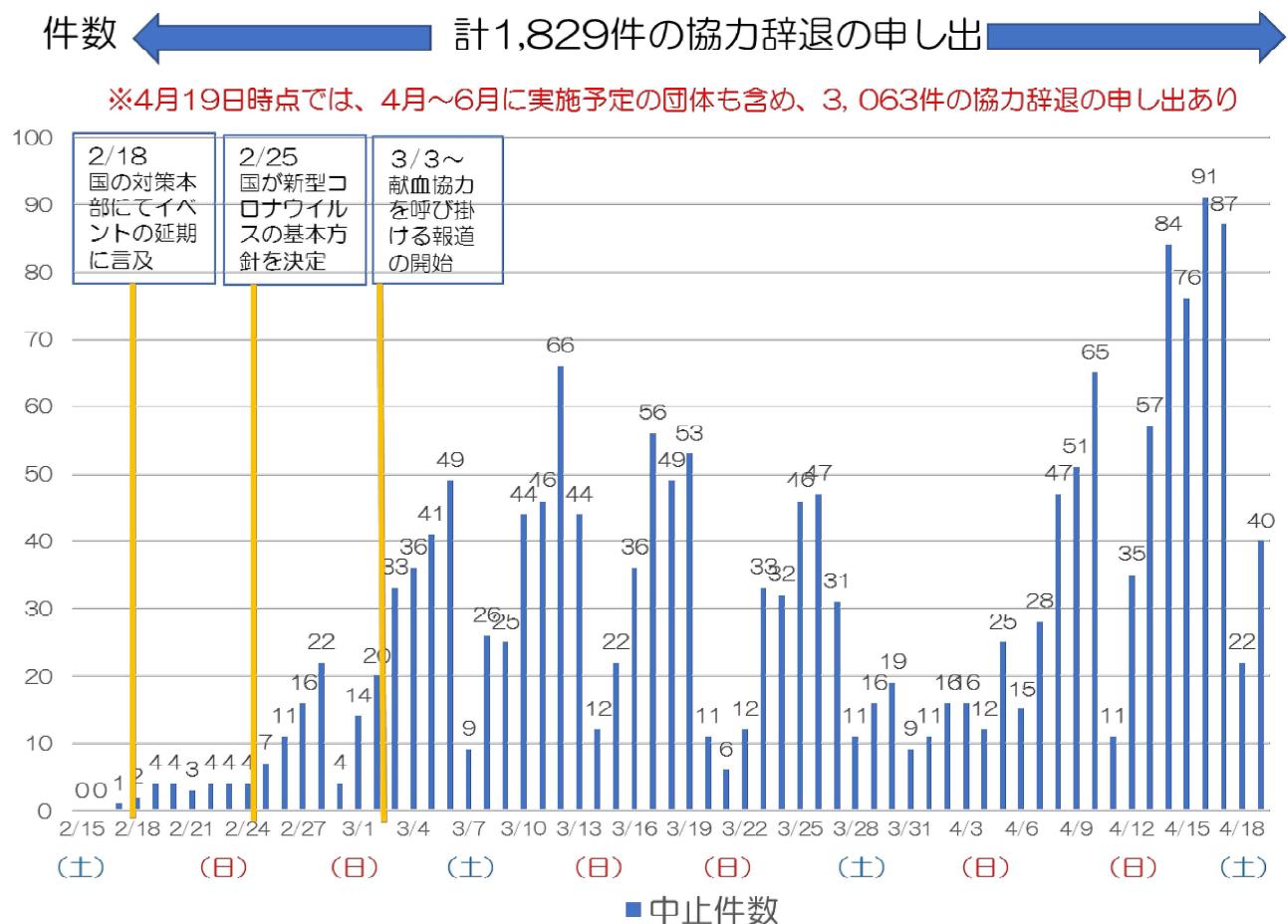
## 2 必要血液量の確保に向けた対応

いかなる状況下においても、医療需要に応じた必要血液量を安定的に確保するため、以下の対応を行っています。

### (1) 献血協力団体等に対する献血の必要性及び安全性の説明

在宅勤務の推奨やイベント等の中止により、企業を中心に献血協力を辞退する動きが相次いでいる（図3参照）ことを受け、献血実施を予定している協力団体等に対して、国民医療を支えるうえで献血は必要不可欠であり、献血会場でのウイルス感染予防対策に万全を期し、安全かつ安心な献血環境が保持されていることを積極的に説明する（図4参照）など、当初予定どおりの献血の実施に努めています。

【図3】献血実施の中止件数の推移  
(令和2年2月15日～4月19日実施予定分)



【図4】献血協力団体等への説明用資料

別紙1 (R2.2.28 改訂)

## 新型コロナウイルス感染症に対する取り組み

当社では従来より、感染症対策を行っていますが、新型コロナウイルス感染症の拡がりの懸念を受けて、さらに徹底した対策を行い、安全な献血会場の運営に取り組んでいます。

### 【職員の健康チェックを徹底しています。】

- ◆ 日々の実施している健康チェックに加えて、出勤前・出勤時に体温測定を徹底しています。

### 【職員の手指消毒を徹底しています。】

- ◆ 職員の出勤時、献血会場入退室時。
- ◆ 献血受付時、問診時、献血カード更新時。
- ◆ 看護師は献血者ごとに手袋を交換しています。

### 【献血会場の良好な衛生環境を保持しています。】

- ◆ 献血会場にて使用する機材は日々、消毒液を用いて清掃しています。
- ◆ 献血会場の入口で体温測定をするなど、良好な衛生環境に配慮した会場設営をしています。

### 《皆様へのお願い》

(付き添いの方もお願いします。)

- ◆ 献血会場では入口に備えている消毒液にて手指消毒をお願いしています。
- ◆ 入口にて体温測定を実施しています。  
(発熱が確認された方については献血会場への入場をご遠慮いただいている。)

新型コロナウイルスの感染の拡大が懸念される現在でも、毎日約3,000人の患者さんが輸血を必要としています。尊い命を救うために、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



## (2) ホームページや「ラブラッド」を通じた献血協力の依頼

日本赤十字社や各血液センターのホームページを用いて、献血協力を呼び掛けているほか（図5参照）、献血Web会員サービス「ラブラッド」の登録会員に対して、最寄りの献血会場での近日中の献血協力を依頼しています。

【図5】日赤ホームページの掲載画面（令和2年3月2日掲載分）

2020年3月2日

### 献血協力者の深刻な減少が続いています！

#### 皆様の献血が必要です

新型コロナウイルス感染症の拡大により、献血協力者の深刻な減少が続いています。輸血用血液の在庫量が不足し始めている地域が発生し、全国的にこの状況で推移すると、必要な輸血用血液の供給に支障が出てまいります。こうした状況の中でも、成分献血を含め、毎日約13,000人の献血協力が必要です。何卒、献血へのご協力をお願い申し上げます。

献血血液（赤血球）の確保状況（2/2～2/29）  
(対計画比)

期間	実績（対計画比）
2/2～2/8	100.3%
2/9～2/15	100.3%
2/16～2/22	94.5%
2/23～2/29	90.6%

▲3,793人  
▲6,146人

献血が減少している！

特に、国の新型コロナウイルス対策の基本方針が打ち出された2月25日以降は、献血計画に対して **87.7%** まで下がっています。  
献血者数では、2月25日から2月29日の**5日間**で**5,793人**が不足しています。

### (3) 厚生労働省血液対策課との連携

血液事業の所管官庁である厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課に対して、採血状況や血液製剤の在庫状況の共有を行い、継続的に対応を協議しています。

また、令和2年3月3日付で、厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課から各都道府県の薬務主管課に対して、献血血液の安定的な確保にあたり、血液センターや管下の市町村等との連携を図るよう依頼する旨の事務連絡が発出されたほか、令和2年4月8日付で、厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課から各都道府県の薬務主管課に対して、緊急事態宣言時でも、献血は医療体制の維持に不可欠であり、献血血液や献血会場の安定的な確保にあたり、血液センターや管下の市町村等との連携を図るよう依頼する旨の事務連絡が発出されるなど、国と日赤が協働して対応を進めています。

### (4) マスメディアを通じた献血協力の呼びかけ

3月2日に、日赤ホームページに献血協力を呼び掛ける記事(図5参照)を掲載して以降、マスメディアからの取材依頼が増加したことを受け、日赤血液事業本部では積極的に取材に応じ、献血協力者の深刻な減少が続き、必要血液量の確保に非常に苦慮していることを伝えるなど、テレビやインターネット等の各種媒体を通じて、広く国民に対して献血協力を呼び掛けました。

その影響もあり、3月5日には、白血病の治療で輸血の大切さを知る競泳の池江璃花子選手がSNSで献血協力を呼び掛けるなど、必要血液量の確保に向けた動きが広がりました。

その後も、多くの自治体において、新型コロナウイルスの感染拡大が進展する状況下でも献血血液の確保が重要であることに鑑み、首長自らが献血に協力するなど、積極的な血液確保の取り組みが進められているほか、各地の報道機関が献血の必要性を報道するなど、国民医療に不可欠な輸血医療を支えるための動きが全国的に広がっています。

## (5) 献血血液の確保状況（4月18日現在）

以上述べてきた必要血液量の確保に向けた各種取組や、献血協力を呼びかける一連の報道等の効果により、3月5日以降は、多くの方に献血にご協力いただいており、輸血用血液製剤の在庫量は現時点では回復しています。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大状況の進展とともに、3月下旬からは献血協力者が再び減少傾向に転じており、血液製剤を安定的に供給するための製剤在庫量を維持していくためには、毎日約13,000人の献血協力が不可欠であることから、協力の一時的な集中が生じることのないよう、WEBや電話による事前予約の一層の推進に努めるなど、今後も状況に応じた取り組みを進めてまいります。

## (6) 緊急事態宣言の発令下における必要血液量の確保に向けた対応

血液事業については、政府の新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針において、緊急事態宣言時においても事業継続が求められており、いかなる状況下でも、国民医療を支えるうえで、医療機関に対して、血液製剤を安定的に供給することは不可欠となります。そのため、各血液センターにおいて、行政機関等の関係団体との連携の一層の強化を図りながら、ラブラッドの活用や予約の推進など、必要血液量の確保に向けた対応を進めてまいります。

また、併せて、事態の進展を見据えた事業継続体制の構築を進めるなど、今後も状況を注視しながら、必要な対策を講じてまいります。

### 【必要血液量の確保に向けた主な対応】

- 献血協力及び献血会場の確保に向けた行政機関等の関係団体との連携の一層の強化
- 献血Web会員サービス「ラブラッド」の登録会員への献血協力依頼
- 献血予約の一層の推進
- 安全かつ安心な献血環境の保持及びその周知

●地域事情に応じた献血推進広報の実施

(ホームページやSNSの活用、報道機関へのリリースの発出など)

### 3 輸血用血液製剤の安全対策

#### (1) 献血後の対応

献血会場等におけるウイルス感染予防対策（2ページ参照）に加えて、献血者全員に以下のリーフレットをお渡しし、献血後4週間以内に新型コロナウイルス感染症と医療機関で診断された（疑いを含む）場合は血液センターにご連絡いただくようお願いしています。いただいた情報については遡及調査ガイドラインに準じた形で献血後情報として社内手順に基づき対応することとしています。

献血にご協力いただいた方へ

新型コロナウイルス感染症に関するお願い

献血後4週間以内に、「新型コロナウイルス感染症」または「新型コロナウイルス感染症の疑い」と医療機関で診断された場合は、献血日、氏名、生年月日を、できるだけ早く血液センターにご連絡をお願いします。

※「疑い」の方が、確定診断された場合もご連絡下さい。  
ご連絡をいただいた方のプライバシーは確実に守られますのでご安心ください。

○○ブロック血液センター××××課  
電話◇◇◇-◇◇◇-◇◇◇◇

## (2) 輸血による新型コロナウイルス感染の可能性について

歴史上、同じコロナウイルス感染症である SARS や MERS、また H1N1 インフルエンザのような、呼吸器に感染するウイルスが輸血により感染が伝播した例は世界で一例も報告されておらず<sup>1)</sup>、今般の新型コロナウイルスのパンデミックにおいても、輸血による感染を疑った報告はまだありません。末梢血液中の新型コロナウイルスについては、新型コロナウイルス感染と診断された症状のある患者の 15~40%において、血中からウイルスが検出されたとされる論文があります<sup>2,3)</sup>。献血者における調査では、武漢の血液センターにおいて 2020 年 1 月 25 日から導入されたプール NAT による全数調査及び後方視的調査による個別 NAT により、4 名の献血者の末梢血からウイルスが検出されています<sup>4)</sup>。これらの血液から製造された血液製剤はすべて回収されており、患者には使用されていません。また、検出されたウイルスはいずれも極めて低濃度であり、それらが感染性を有しているかどうかは分かっていません。著者らは、1 月下旬以降新型コロナウイルスは献血血液からは検出されておらず、中国政府による厳しい安全対策と献血者の注意深い検診により、ウイルス血症を示す献血は排除することができたと述べています。

## (3) 献血血液のスクリーニング検査について

現時点では、このウイルスが輸血によって患者の末梢血に入ることにより、重大な健康被害を起こすとの知見は得られておらず、WHO もあくまでも理論的可能性ととらえています<sup>1)</sup>。諸外国でも中国の湖北省を除き、献血血液の新型コロナウイルス・スクリーニング検査は実施されていません。日本赤十字社におきましても、献血血液の新型コロナウイルス・スクリーニング検査の導入は現在予定しておりません。

### 参考文献

- 1) WHO Maintaining a safe and adequate blood supply during the pandemic outbreak of coronavirus disease (COVID-19). 20 March 2020. [https://www.who.int/publications-detail/maintaining-a-safe-and-adequate-blood-supply-during-the-pandemic-outbreak-of-coronavirus-disease-\(covid-19\)](https://www.who.int/publications-detail/maintaining-a-safe-and-adequate-blood-supply-during-the-pandemic-outbreak-of-coronavirus-disease-(covid-19))
- 2) Huang C, et al. Clinical features of patients infected with 2019 novel coronavirus in

- Wuhan. China Lancet 2020. [https://doi.org/10.1016/s0140-6736\(20\)30183-5](https://doi.org/10.1016/s0140-6736(20)30183-5).
- 3) Wei Zhang, et.al. Molecular and serological investigation of 2019-nCoV infected patients: implication of multiple shedding routes. Emerging Microbes & Infections 2020, VOL.9 <https://doi.org/10.1080/22221751.2020.1729071>
- 4) Le Chang, et al. Severe Acute Respiratory Syndrome Coronavirus 2 RNA Detected in Blood Donations. Emerging Infectious Diseases. July, 2020.  
[https://wwwnc.cdc.gov/eid/article/26/7/20-0839\\_article](https://wwwnc.cdc.gov/eid/article/26/7/20-0839_article)

#### (4) 諸外国の新型コロナウイルスパンデミック時における献血血液の安全対策

諸外国においても、新型コロナウイルスに関する献血血液の安全対策を以下の表のように講じています。また、WHO や欧州疾病予防管理センター (ECDC) や米国食品医薬品庁 (FDA) からも輸血用血液の安全対策及び安定供給についてガイダンス等が発出されています（別添参照）。

	WHO	欧州 (ECDC)	米国 (FDA)	日赤	韓国 赤十字	香港 赤十字
献血前の確認	体温測定	記載なし	記載なし	○	○	○ おそらく実施
	追加問診項目	記載なし	記載なし	記載なし	×	○ 情報なし
献血延期措置期間	感染者（確定）との最終濃厚接触後	28日	14日	28日	28日	記載なし 28日
	感染が確認された地域から帰国後	28日	14日	28日	28日	1か月 28日
	感染と診断され、症状消失後	28日	14日	28日	当面	記載なし 180日
献血後情報対応の製剤対応	発症から何日前までの製剤/献血から何日後までの製剤	献血後28日以内に発症で連絡	日数にかかる記載はなし	発症日から遡って28日以内もしくは濃厚接觸があった前後28日以内の製剤を対象	献血後28日以内に感染診断（疑い含む）で連絡	献血後14日以内に発症で連絡 献血後28日以内に発症で連絡
	陽性だった場合の供給先への通知	記載なし	記載なし	記載なし	○	記載なし 記載なし